

## 別紙 1

令和5年度 女子美術大学 冬季高校美術科教員対象研修会（講義・実技）実施講座 [12/26(火)]

■申込方法：12/1（金）10:00より受付開始（12/15（金）18:00受付終了）

\*先着順。定員に達し次第随時終了

右記 QR コード ([https://www.joshi.ac.jp/for\\_teachers/20231226](https://www.joshi.ac.jp/for_teachers/20231226)) 内のフォームより、

①本学相模原キャンパスで講義系研修・実技系研修会全て参加（9:30～17:30）

または、②オンラインで講義系研修のみ参加（9:30～12:00）を選択、お申込みください。



### 講義系研修（9:45～12:00）相模原キャンパス \*オンライン受講可

\*講義系研修Ⅰ・Ⅱを受講後、実技研修を受講いただけます。

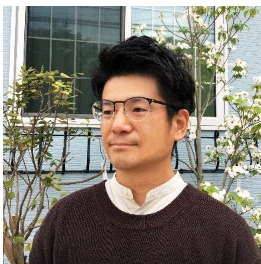
\*オンラインで受講される場合は、講義系研修のみとなります。

#### 講義系研修Ⅰ（美術）（9:45～10:45）

##### 『究極の肖像とは何か？』

##### —仏教におけるミイラづくりを知る—

**内容**：今回の講座では、ちょっとオカルトっぽく感じるかもしれませんが、「仏教とミイラ」の親密な関係について解説します。本来、肖像とはモデルに似せることを目的とした芸術であり、それは洋の東西、時の古今を問いません。そして、モデル本人により近く似せるということを突き詰めれば、本人そのものがベスト、ということになります。その意味で、肉身像、すなわちミイラこそは本人そのものであり、「本人の死後も残る本人」として、これより理想的な肖像はありません。紀元前よりミイラづくりに長け、そのうえ土葬を重んじてきた中国では、仏教伝来以降も肉身像の制作を続けてきた。さらに、唐代8世紀には、補強と装飾を目的として、像の表面に漆を加えたミイラも登場しました。中国にはその時代までさかのぼる作例はほぼ現存していませんが、実は、奈良の興福寺の阿修羅像や、唐招提寺の鑑真像は、そうした「ミイラづくり」に連なる格好の資料なのです。ちょっとオカルトで、ほんの少しグロテスクな内容かもしれませんが、ぜひ今回の講座をきっかけとして仏像に対するイメージを一新し、日々の教育に役立てていただければ幸いです。



<講師>

檀山満照 准教授  
芸術学部  
国際芸術文化専攻/  
共通専門

#### 講義系研修Ⅱ（デザイン）（11:00～12:00）

##### 『広がるデザイン領域』

**内容**：私たちを取り巻く環境が急速に変化し、将来を予測することが困難な VUCA (Volatility 変動性・Uncertainty 不確実性・Complexity 複雑性・Ambiguity 曖昧性) の時代。これまでの考え方や既成の概念では解決できない SDGs などの課題に対して、デザインやアートが持つクリエイティブな力への期待が高まっています。今、まさに注目されている「広義のデザイン」とは何か、また、これからの時代に必要とされる「デザインを主軸に、ビジネス、テクノロジーなど異分野を融合して構想する力」、「多様な人々と共創する力」について、その重要性をお伝えします。今年度新設された共創デザイン学科では、ビジネスの現場でも注目されている「共創力」、女性が社会で活躍していくために身につけてほしい「強い心の育成」、そして、応用力や実践力を育む「産官学連携による実学」を通して新しい教育を実践しています。小学生からプログラミング教育が導入され、中等教育、高等教育においても高大連携や教育変革が求められる時代に、皆様と共にこれからの教育を考える場になればと思います。



<講師>

松本博子 教授  
芸術学部  
共創デザイン学科